

員らに現任（リカレント）教育を行う「講習科」の2科の、厚生省（現厚生労働省）予算で運営する「準国立」の各種学校であった。

米国直輸入の技術

失業者、浮浪児、焼け跡に広がるバラック群……。戦後、日本の世相はすさんでいた。占領するGHQ（連合国軍総司令部）は生活保護法ならびに法を運用する専門的従事者養成校の新設を政府に指示。それを受け、46（昭和21）年



開校1周年の記念式典にはGHQのサムズ大佐もあいさつに来た

ツチするまでの10年余、校長（事務取扱）・学長職にあった。研究科第1期生には全国か

や早慶など戦前の、とはいえず当時としては一流の社会政策や労働法の学者や福祉施設の管理者らを講師にそろえた。半年後には新設の本科（3年制）を加えて事業専門学校へ移行するのだが、学生は多士済々。本科は高校の新卒者が多かったが、研究科には陸軍や海軍の元軍人、公務員、僧侶、教員、旧帝大や士官学校などの卒業生、農家など20、40代の学生が教室を埋めた。軍服に軍靴姿も珍しくなかつたという。

霜烈な校歌

「佐伯三郎作詞、木田みさを作曲」の第2番だ。室町時代の戦記物語『太平記』の情景——「空シク赤土（赤茶けた土）ノミ有ツテ、青苗（青々としたイネの苗）無シ。餓（餓死した者）野ニ満チテ、飢人地ニ倒ル」（『日本の文学』ほるぷ出版から）——を思わせる荒廃から忘我我友愛（自分のことだけを考えず人を助ける）の心で福祉の世へ、との意気込みが伝わってくる。大学の使命をこころまで霜烈に歌い上げる学舎はそうあるまい。まだ助教だった日本女子大の一番ヶ瀬康子・名誉教授（1927〜2012）はこの節を引用しつつ、「学生の多くは、生きる意義とその手段が直結する生き方を、真剣に考えている」（『大学の庭』朝日ジャーナル編集部、1964年）と評した。（横田一）

敗残から立ち上がれ

10月、法施行に合わせて開校したのが「日本社会事業学校」。社大の前身だ。旧制大学や専門学校卒業者を対象にした「研究科」（1カ年修了・定員50人）と、戦前の方面委員から衣替えした民生委

元厚生次官（1906〜2001）。29年に内務省へ入り、戦後はGHQと折衝しながら自らも渡米し、海外引揚者の援護、生活保護法、児童福祉法、社会福祉事業法の新設など厚生行政の骨格を築いた。

48年に原宿へ引っ越し。東郷神社のそばだ。いまではヤングの人気スポットだが、校舎（旧・海軍館）は空襲の跡も生々しく、戦禍の臭いを漂わせていた。

学生は多士済々

都道府県や社会福祉協議会によっては給費制度をつくり、本科へ送り出している。東北地方では管轄するGHQ軍政部の係官が自治体へPRしたところもある。

葛西嘉賢・初代短大校長



昇格前年の57年に木村忠一郎・第2代学長（1907〜78）元厚生次官Ⅱへとバトンタ

木造校舎は東京・牛込の旧軍人援護会のオンボロ、東大

30代で教壇に立った五味百合子・名誉教授（1913〜2009）は、そう歳の離れ

社大メモ

社会福祉学部の中で福祉計画学科（福祉経営、地域福祉の2コース）、福祉援助学科（保健福祉、子ども・家庭福祉、介護福祉の3コース）に分かれる。研究大学院のほか、福祉系では唯一の専門職大学院や通信教育課程をもつ。学生の約7割が女子、卒業生の約9割は毎年、社会福祉分野へ進む。

理事長＝名取はにわ▷学長＝横山彰。

サテライトキャンパス（文京区）、国際・アジア福祉研究教育センター、附属実習施設「子ども学園」、学生寮などを併設。

日本社会事業大学 ①

東京と埼玉にまたがる狭山丘陵。その一角に日本社会事業大学（東京都清瀬市、略称・社大）のキャンパスはある。小公園のようだ。隣の国立病院機構東京病院（結核傷病病用の旧・東京療養所）より譲られたこの地へ1989年（平成元）年に東京・原宿から移転したとき、近隣の要望で既存緑地の55%を残したせいでろう。

学生数は大学院を含め約940人（2021年）。しかし、行政職をはじめ民間の施設・団体、教員などへと人材を送り出す「福祉教育のパイオニア」の存在感は大きい。



緑濃い清瀬キャンパス

福祉の学び舎

3

人を見ずして福祉はない。

「糊とハサミではなく、足で歩いて学べ」。木田徹郎教授（1902〜71）は社会福祉（1902〜71）は社会福祉概論はこう論じた。東京大在学中セツルメントに関わり、内務省社会局などを経て1949（昭和24）年、日本社会事業専門学校に教授に。短大、大学と発展し、仲村優一教授（のちに日本社会事業大第3代学長）へ引き継ぐ67年まで学監（教務部長）を、というより「忙しい葛西嘉資・初代学長（校長）に代わり事実上の責任者だった」と周囲は言う。

この学びが全員必修の「社会調査」であった。

詞に蚊帳をつり

甘く切ないテネシーワルツのメロディーが街に流れる1952年夏。その春、短大と併設されていた日本社会事業学校の研究科7期生として原宿校舎の門をくぐった神田均さん（91）は静岡県藤枝市在住の調査フィールドは神奈川県川島の海岸に近い農村であった。詞に持参の蚊帳をつり

日本社会事業大学 ①

人に寄り添い、地に足をつけ

て1週間ほど寝泊まりし、2人1組で家計調査に回った。新制高校（1期生）を出て、ふるさと静岡県佐倉村（現・御前崎市）の村役場に就職。遠州灘の防風林に点在するバラック小屋を巡った生活保護調査の3年間と重なるものがあったという。

「知識も技術もないシロウ

空腹を抱えながら講義をノットにとった。1年後、社会福祉主事の任用資格を手につく。へ戻り、福祉事務所や県庁など福祉畑一筋に歩んだ。県ポランティア協会の理事長や社大同窓会の副会長も長く務めている。

「貧困研究」がメインテーマだった社会調査については、卒業生なら必ず口にする。漁師の家にホームステイした北海島の礼文島、「ムコに」と誘われた長野県の寒村、被差別部落や夕張炭鉱、そして横

法廷も見学

「民法〔社会保障法〕の小川政亮先生（1920〜2017）には、東京地裁へ傍聴に連れて行ってもらいました。全国2人目の女性知事、潮谷義子さん（82）の思い出だ。

卒業生初の社大理事長（2012〜17年）である。入学した1958年春は短大が大学（定員50人）へ移行した年。短大の新2年生が持ち上がりで社大1期生とされた関係で、2期生になった次第だ。

卒業、生まれた佐賀県や大分県の職員を経て、社大同期の夫・愛一さん（81）の父・潮谷総一郎（1913〜2001）が園長をつとめる熊本市の社会福祉法人慈愛園へ。

乳児院長だった1999年、熊本県副知事に抜てきされ、翌年には知事急逝に伴う知事選に当選、福祉で培った現場主義「クライアント・セントラルド」（利用者中心）をモットーに2期8年間勤めた。義父・総一郎長男の有二さん（54）は2021年春、社大教授

ト。これではだめだと役場を辞め進学したが、制度を知るほど、社会の実相はより深刻なことを実感した。「木田先生の『文化社会学』の講義や文化という言葉には新鮮な潤いを感じたものです」。69年前に思いをはせる。

浜・寿町や東京・山谷でドヤの住人と朝酒をとにした剛の者も。この類の社会調査は戦前もあった。しかし、軍事的・生産的な視点に立つ農村経済の更生といった面が強く、困窮を主とする戦後のそれとは違う。

その法廷で展開中だったのは朝日訴訟。「憲法の保障する生存権と文化的な最低限度の生活の、あれが実態でした。文化には地域格差という差別も含んでいるのだと知り、ショックでした。でも、校歌はよく歌いましたよ」。

女子栄養大で調理実習もした。学年の定員は1959年から倍の100人になったが、教授会では学生の氏名まで口をついたという。マンモス大学ではこうはいくまい。



潮谷義子 理事長



蒲生俊宏 教授

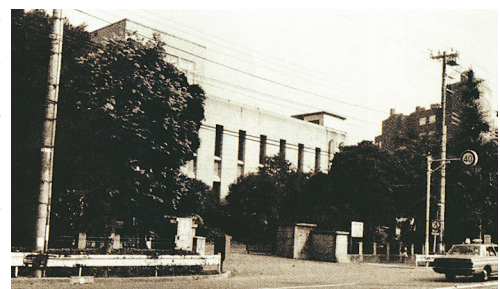


神田均さん

「先生のお話ですと、働ける人間のみが人間のようです。が、僕は今、働けない人も人間ではないかと思っているの

（地域ケアシステム論を辞して慈愛園の養護老人ホームとケアハウスの施設長へ）と3代続く社大ファミリーだ。密だった教員と学生

子弟のつながりと言えば、1962（昭和37）年度から新入生対象のオリエンテーション・キャンプ（1泊2日）を実施。77年度には3年間の総まとめとして、インテグレーション・キャンプ（同）を始めていた。ゼミの合同報告会のおと3年生全員と全教職



原宿校舎

ことば

朝日訴訟は結核で国立岡山療養所にいた朝日茂さん（1913〜64）が兄から月15000円の仕送りを受け始めたところ、国は生活保護法の日用品費（月6000円）をカット、9000円も医療費の一部自己負担分へ充当した。低い日用品費は憲法25条（すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する）に反すると1957年提訴。一番東京地裁は原告勝訴、二番東京高裁は国側勝訴、最高裁は上告人（朝日茂さん）の死亡を理由に67年訴訟終了とし、二審判決が確定。

員がバスを連ねて山中湖畔などへ出かけ、卒論や進路について口角泡を飛ばした。「残り1年をいかに過ごすか、アルコールも入って、それはにぎやか。『講義が面白くない』と教員にかみつく者もいた」と蒲生俊宏教授（62）は障害者福祉担当。この親密

感ゆえか、学生運動による校舎占拠時も機動隊を入れず自主解決しているが、現在こうしたイベントは影もない。「それにしても今の学生は本当に静か」（蒲生教授）と、いささか物足りぬ気である。

（横田一）

福祉の学び舎

3

日本社会事業大(社大)は
いかなる人材を育てたいのか
—横山彰学長(72) 公共
経済学Ⅱは「Warm Hearts
but Cool Heads」(温かい
心と冷静な頭脳)を、すなわ
ち校歌にある『忘我の愛(自
分のことだけを考えず人を助
ける)と智の灯』です』と言
う。

このフレーズの原典はイギ
リスの経済学者、アルフレッ
ド・マーシャル(1842~
1924)のケンブリッジ大
学教授就任講演(1885年)
だ。経済学を志す者は「Co
ol Heads but Warm Hearts
を持ち、繁栄の裏側も見み」と
ロンドンのスラム街の見聞と
社会の改良を促した。人間の
ための経済学たれと。ケン
ズ(1886~1946)の師
だ。横山学長は語順を替えた
わけだが、「本学にはもとも



横山彰学長

日本社会事業大学 ①

と心の温かい学生が多い。大
学では冷静な頭脳、知識を身
に付けて欲しい」と説明する。

変わる学生像

社大伝統の社会調査は、こ
のスラム街体験と相通する。
しかし、1970年代に入る
と調査件数は減り、いまや昔
語りと言っても過言ではな

パスライフ)ムードが台頭し
てきたことだろう。
特に73年の「福祉元年」以
降、拡大する福祉施設と多様
なサービスを担う質の高い人
材の育成は急務になった。
「社会福祉士及び介護福祉士
法(87年)などが整えられ、
福祉系大学のカリキュラムは
タイトになっていく。
「全員が社会福祉士の資格
を目指すよう履修科目を組ん
でおり、学生も教員も以前の
ように1週間も社会調査へ充
てるゆとりがなくなった」と

グループホームを「掛け持ち
バイト」し、違いを卒論にと
頑張る女子もいる。
「語り部」たち
今年4月、約200人の1
年生を対象にしたオリエンテ
ーション。「初めまして。こ
んにちわ」。キャンパスとは
指呼の間にある国立療養所多
磨全生園(東京都東村山市)
に住むハンセン病回復者、山
内きみ江さん(87)の声と画
像がパソコンに流れる。コロ
ナ禍ゆえ例年の対話に代わ

思って大事に。足が2本あつ
ても幸せとは限りません。
(差別、偏見をなくすには)
当人自身を含め、なんでも知
ることです」
人生の苦節を刻んだ答えに
はよごみがない。
担当の斉藤くるみ教授(65)
「言語学Ⅱはこの対話を皮
切りに、自然科学(感染のメ
カニズム)、文学(全生園の
入所者だった作家・北条民雄
論など)、言語学、社会学
(「患者の告白」を読み解く
など)、教育学といった多角

「温かい心と冷静な頭脳」

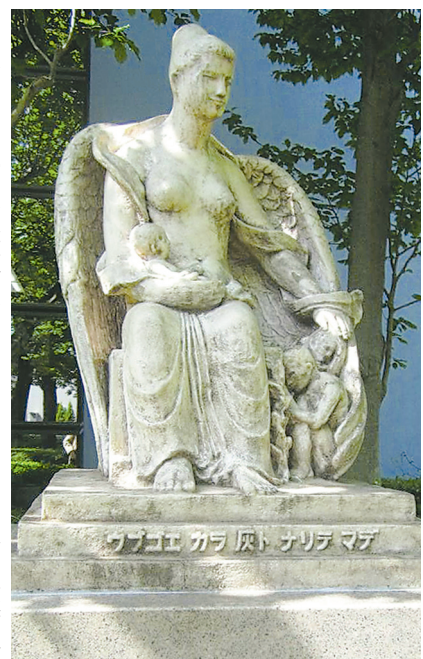
い。背景にあるのは、高度経
済成長(1960年代)によ
り貧困が減少する一方、公害
人口の高齢化、家庭機能の低
下などに伴い福祉ニーズが多
様化、高度化したこと。さら
に学園紛争という「政治の季
節」を抜け、「楽しいキャン

蒲生俊宏教授は複雑な表情
だ。だからと言って建学の精
神を忘れてかかっているわけは
ないが、「校歌をみなどで歌つ
たり耳にすることはほとんど
ありません」と、福祉援助学
科4年の瀧山真衣さん(21)。
「しかし、学生の9割方は
学んだ技術を生かして福祉施
設などでアルバイトし、社会
との接点は広い」と金子恵美
・社会福祉学部長(63)。た
しかに、親の会をルーツとす
る社会福祉法人と株式会社

り、学生の自宅や下宿などと
結んでのリモートだ。いじめ、
差別、偏見、65年間の園生活
や断種手術、結婚などについ
て約30分間話した。続いて学
生から「若者の自殺をどう思
いますか」「私は生まれつき
車いす。どうやって偏見や差
別を乗り越えたんですか」な
ど質問が上がる。
「神さまより授かった命。
頭がよくなくてもいい、人の
ためになるよう長生きなさ
い」「車いすが自分の足だと

的な視点から半年かけて講義
します」。1年生を対象に5
年ほど前に始めた「チェー
ンレクチャー」だ。リベラルア
ーツ(一般教養科目)で「横
申をさす学際的な学び」(潮
谷義子・元理事長)である。
語り部の講義はもつと古
く、15年ほど続いている。
「偏見は無知ゆえと教えられ
ました」と福祉計画学科4年
の笹原舞さん(22)。ある4
年生(21)は「高校時代まで
ダウン症の妹の存在を外では

社大のシンボル、幼子を抱く「ウブコエカラ灰ナリテマデ」像。別
名カベ像と呼び、「誰にでも無条件に注がれる神の愛」を意味す
る。彫刻家・渡辺義作(1960年) 清瀬キャンパス



ウブコエカラ灰ナリテマデ

口にできなかった。学友の助
言もあり、今は抵抗ありませ
ん」。障害を色メガネで見
ていたことに気づき、自分を開
いていく。特別支援学校の先
生を目指している。
昨秋には学舎直属の社会
福祉研修センターを開設。近
年目立つ児童虐待事件で地方
自治体の福祉事務所や児童相
談所の対応のまずさが社会問
題化したこともあり、子ども
分野のオンライン研修(10日
間)をスタートした。現任
(リカレント)教育だ。

915(2005)、五味百合
子の両教授が対談している。
吉田「Aばかり並べ「た学
生を集め」てそれですむとい
う学校でもないでしょう」
五味「社会福祉系の学生が
できることは、その問題を持
ってきた人とともに悩むと
か、一緒に模索することか、共
感を持って感ずることができ
るとか、話し合つことができ
るとか、問題の所在を見通す
努力をするということ……じ
やないですか」「福祉を必要
とする人々の側に立って、社
会の矛盾や欠陥と対決してい
く」(『続・社会事業に生き
た女性たち』ドメス出版、1
980年)
永遠に変わらぬ教えである
(横田一)

頭ばかりよくても…

それにしても社大の教育原
理とは何か? たまたま同じ
1981(昭和56)年3月に
社大を退任した吉田久一(1

980年)
永遠に変わらぬ教えである
(横田一)



斉藤くるみ教授

「楽しいキャン

「車いすが自分の足だと

「偏見は無知ゆえと教えられ

それにしても社大の教育原

永遠に変わらぬ教えである